

JASRA ニュース VOL.03/2022.11.28

「土サミット 2022」開催レポート

去る 10 月 21 日、「土サミット 2022」の開催が無事に終わりました。ホテルニューオータニ東京を会場に、今年は「災害と土」というテーマで各界の代表者が集って活発な議論が交わされました。

近年多発する土砂災害を鑑み、国ならびに東京都から新たな方針が示されました。また、(株)奥村組による千代田幹線(下水道)の工事現場からの実況中継が行われ、臨場感あるライブ講演を味わうことができました。

特に反響が大きかったのは、国交省による富士噴火災害について。アンケートでは「富士山が歴史的に災害の多い山だとは知らなかった」など、驚きのコメントが多く寄せられました。

また、熱海の土石流災害から盛土に対する規制強化が始まっていることをよく理解できたという声もあり、今回の「災害と土」というテーマの意義を感じていただける機会になったのではないのでしょうか。

今回初の試みとなる学生ワークショップでは、「土の未来」について学生が自身の研究を重ねて語り、会場に新鮮な風をもたらしてくれました。最後のパネルディスカッションでは、「土」というモノの価値を考え直す議論が交わされ、「みなさん、土を愛しましょう！」との呼びかけに会場が一体となりました。

さらに、前日開催された「現地見学会」では、東京都建設発生土再利用センターと成友興業(株)にお邪魔して、東京都の建設発生土、建設汚泥への先進的な取り組みをしっかりと勉強させていただきました。

今回のプログラムで「土サミット」の知名度が更に上がった感があります。皆様で力を合わせて、次回の「土サミット」を一層盛り上げていきましょう！



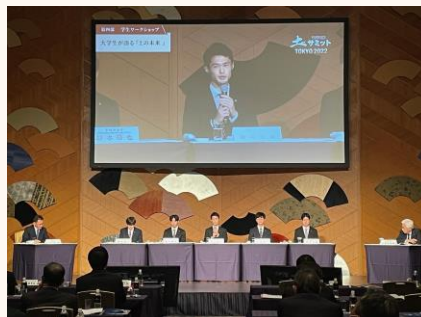
会場には 200 人以上の参加者が詰め掛けました



有識者によるパネルディスカッションでは「土」への愛が語られました



奥村組による東京都の地下シールド工事現場中継



5人の大学生による「土の未来」に向けたワークショップ



前日に開催された「現地見学会」にも多くの方から好評を博しました

第3回技術研修会 報告 「養生方法の違いによる物理・力学特性の変化-再掘削性をイメージして-」

令和4年11月8日、第3回オンライン技術研修会「養生方法の違いによる物理・力学特性の変化-再掘削性をイメージして-」が開催された。講師は、前回に引き続き石川県にある株式会社吉光組の専務取締役であり技術士の資格を持つ道勇治さまにお願いした。

「砂と粘土のどちらが再掘削しやすいだろうか?」と最初に問いかけ、土のせん断強度と再掘削のしやすさの理屈を解説。砂は土被り（構造物から地表までの厚さ）が大きくなるほどせん断強度は大きくなるが、粘土は土被りに関係なく強度が一律になるとデータで示した。一方、改良土は粘土分を多く含む建設発生土が原材料となることが多く、人的に強度確保もできるため、液状化に強い優れた資材であると述べた。

また、石灰系固化材による改良土は、攪拌後1週間程度の養生期間を確保すると団粒化など石灰系特有の化学反応により、セメント系固化材による改良土と比較して再掘削がしやすくなると実験映像を交えて解説した。しかも、その改良土を再掘削した場合、砂質土状の低塑性材料に変化している例もあり、良質な盛土材料としても再利用できる可能性を示した。

改良土にこのような特性があるということはあまり知られていない。工事発注者には、改良土の特性をもっと知ってもらい、もっと広く利用して欲しいと締めくくった。



(株)吉光組 道専務取締役

お知らせ

【1】行事予定

- ・2022年12月1日(木) 13:00~16:25: 「第2回 JASRA 建設発生土リサイクル講習会」/会場: 联合会館(東京都千代田区)
- ・2023年1月18日(水) 15:00~16:00: 第4回技術研修会/オンラインセミナー

【2】11月28日現在の会員数

- ・正会員46社 賛助会員23社 特別会員1社 合計70社

【3】投稿記事の募集

- ・「JASRA ニュース」では、会員の皆様からの投稿記事を募集しています。ご希望の方は、下記事務局までお問合せください。

事務局

一般社団法人 全国建設発生土リサイクル協会

〒101-0023 東京都千代田区神田松永町22

電話: 03-3526-2129 FAX: 03-3526-2139

E-mail: info@jasra.or.jp URL: <https://jasra.or.jp/>

————— JASRA ニュース VOL.03 令和4年11月28日発行 —————